

知恵の樹

No. 177 2013. 8. 21

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

再び、転換点としての 3.11 に思う

小寺 美和

2011.3.11。あの日、一緒に校庭に避難した子どもたちとともに、地面が揺れる怖さを体感した。そして、取り返しのつかない 3.11 原発震災の被害の大きさを前に、こんな恐ろしいものを残してきてしまったことへの悔いで言葉もたじろいでいた。そこへ放たれた「大人はいいよ。今までいろんなことやってきたから。うちらは、まだ14だよ。どうなるの」という子どもからの問い。原子力の平和利用が生み出した、オール電化システムキッチンの「ライフスタイル」が、大手を振って歩き出し始めたときの原発事故。これまで生きてきた大人として、子どもたちの未来にどう責任をとるのかと突きつけられた一瞬だった。

あの日から「想定外」「直ちに影響はありません…」と浴びせられた言葉。「想定」とは誰のどんな想定だったのか。「直ちに」ではないのなら、それはいつなのか。言葉の向こう側を想像すれば、欺瞞のコートが羽織った言葉が見えてくる。子どもたちは、「直ちに影響はない」放射能によって見えない恐怖に晒され、思いつき深呼吸して駆け回る場さえ奪われている。懸念していた事故後の子どもの甲状腺がんの発症も、12 人に上る。この事実の重みを忘れてはならない。

昨年暮れに、被災地の高校生の声、相馬高校放送局の『今伝えたいこと(仮)』に出会った。震災から1年後、福島県内の高校が舞台で、震災後に高校に入学して仲良くなった3人が登場する。3人の中で一番明るく振る舞っていた子が、突然自ら命を絶ってしまうことから、自殺した原因について思い悩み、その中でこれまで抱え込んできた自分たちの被災体験を打ち明け始めるのだが、自分たちの声を届けることができないいらだちと、インターネットで何かを伝えようとすると誹謗中傷を浴びせられてしまうことに怒りを爆発させ、2人きりの教室で、「誰かお願いします！ 私たちの話を聞いてください！ 子供の訴えを無視しないでください！ 今ある現状を忘れないでください！

死ぬほど苦しんでいる人がいるのを忘れないでください！」と叫ぶ。この、抱え込んできた自分たちの声を届けることができない、苛立ちの中で叫ぶ声が、胸に突き刺さり、「原発が立地するこの日本に暮らす全ての高校生の明日の姿かもしれない」という顧問の渡部先生の言葉がずしんと響く。今夏、その相馬高校放送局の活動に対して 2013 年度 JCJ(日本ジャーナリスト会議 1958 年創設)特別賞が贈られた。演劇などを通じて、原発事故による被害や放射能の恐ろしさを訴えてきた取り組みが「勇気ある行動」と評価されたという。高校生が自分の思いを伝えることが「勇気ある行動」とされなければならない日本社会の有り様には複雑な思いがするが、彼らの声を多くの人が聞くチャンスになれば嬉しい。

福島の原発事故後、ドイツでは原発反対の大規模なデモも行われた。あるドイツの原子力発電所で爆発事故が起き、パニックに陥った人々の様子が描かれる Y.A 向け小説『みえない雲』(小学館文庫・2006)は、ドイツのパウゼヴァングによって 20 年も前に書かれたものだ。日本でも 5 年前に同名の映画が上映され話題になったが、ドイツでは 150 万部のベストセラーになり、政治家や知識人をふくめた大人たちにも広く読まれ、国語の教材にしたところもあったという。社会的な議論が湧き起こる背景には、こうした作品をとおして、若い世代も含めて共有してきていることが大きいのではないだろうか。

暮らしを覆した「3.11」は、見落としてきた歴史の一コマを丹念に見直すことを、問いかけ考えさせる。フクシマに原発を強いてきたのは誰だったのか。「想定外」の「自然災害」という報道の言葉の危うさや「がんばろう！ 日本」のかけ声に埋もれて、何もなかったかのように復興を叫んではならない。

(会員・原爆の凶丸木美術館ボランティア)

図書館協議会は、19回、20回と開催され、7月16日(火)に市長・教育委員長・教育長に緊急提言(別掲)を提出して14期(2年1期)の任期を終えた。

第19回 6月25日(火)

【館長報告】

- ・嘱託職員の退職(岡本若菜)と採用(永井世津子)
 - ・教育委員会(6/10)・・・図書館事業計画を策定中
 - ・2013年第2回町田市議会定例会報告・・・森本せいや議員・三遊亭らん丈議員・殿村健一議員らによる図書館に関する一般質問があった
 - ・その他として・・・図書館事業計画については、市民の意見を受けて大きく変更した事はない
- 報告・・・鶴川駅前図書館の利用実績について／川崎市との相互利用実績について

【協議事項】

1. 市立図書館と学校図書館の連携について
 - ・緊急提言・・・学校図書館に学校司書配置を(案)について文言修正
 - ・学校支援貸出および団体貸出事務手続き一覧について説明を受ける。
2. 議事録の訂正方法について再度確認を行う

第20回 7月9日(火)

◇第16回、第17回、議事録の確認・・・承認

【館長報告】

- ・教育委員会・・・議案:第15期図書館協議会委員の委嘱、町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱及び任命について
- ・さるびあ図書館臨時休館の延期について等

【委員長報告】

- ・第1期第9回生涯学習審議会について

【協議事項】

- ・市立図書館と学校図書館の連携について
- ・緊急提言／学校図書館に学校司書配置を(修正案)文言の最終確認をする

【その他】

14期の協議会を終えるにあたってそれぞれ委員が感想を述べた。

●7月16日 10時「緊急提言 学校図書館に学校司書配置を」提出(次ページ)・・・図書館協議会委員長松尾昇治が読み上げ佐藤昇教育委員長、渋谷友克教育長に提出／町田市役所10階第4会議室

第15期第1回図書館協議会スタート

8月12日(月)午後3時 於:中央図書館ホール
 ・委員委嘱の後、館長挨拶があり、委員自己紹介。
 委員長・副委員長を互選し、委員長には山口氏が、副委員長には玉目を選出された。

15期協議会委員(2013年8月1日～2015年7月31日)

図書館協議会委員の定数は10名以内で、教育委員会から委嘱されます。任期は2年間。

No.	氏名	選出区分
1	山口 洋	学識経験を有する者
2	市村 省二	学識経験を有する者
3	高野 和美	学校教育の関係者
4	千田 実	学校教育の関係者
5	久保 礼子	社会教育の関係者
6	玉目 哲廉	社会教育の関係者
7	清水 陽子	社会教育の関係者
8	多田美恵子	社会教育の関係者
9	中林 君江	社会教育の関係者
10	砂川 とき江	家庭教育の向上に資する活動を行う者

◇事務局より説明・・・議事録作成、協議会での発言の仕方について、開催スケジュールについて

【館長報告】

- ・教育委員会(8/2)報告
- ・議案審議事項として・・・教育目標及び基本方針の改定／町田市教育プラン(原案)／2012年度の施策等の点検及び評価報告書
- ・報告事項として・・・生涯学習の進め方について(答申)／中央図書館及び文学館の蔵書点検結果／忠生市民センター改築工事着工式7月19日

【協議事項】

1) 図書館評価

・2012年度の外部評価について依頼
 前期よりの継続委員が3名のみ。そこで、委員を3つのグループに分け、山口・玉目・久保がグループリーダーとなり評価を進めることになった。

2) 生涯学習審議会委員の選出

・前期同様、委員長を指定してきたので、山口委員長を選出する。

町田市立図書館協議会は、

図書館法第14条及び町田市立図書館協議会条例に基づいて設置されている附属機関で、町田市立図書館長の諮問に応じるとともに、図書館サービスについて意見を述べる役割を担っています。(編)

<提言資料>

-図書館協議会での検討経過-

〈概要〉14 期では、主要議題の一つとして「市立図書館と学校図書館の連携」を取り上げた。市内の小中学校図書館を3校回って平均的な学校図書館を見学、先進的な他市の連携のあり方を DVD で視聴、全国的な平均値との比較などのから現状を分析し課題を把握。よりよい連携の在り方を探るべく論議を重ねてきた。

また、文科省のさまざまな施策および町田市の「第二次子ども読書活動推進計画」などを参考に、今求められているもの、今欠けているものは何かを追求してきた。

こうした半年に及ぶ議論から、現状を大きく前進させるためには、ただ1点の解決策、すなわち、「人」の問題であると結論づけるに至った。この解決なくしては、いかなる施策も成果を十全に成し遂げることはできないであろう。

教育効果を上げるために

1. 市立図書館との連携のためにもすべての学校図書館に学校司書を置くこと。

市立図書館が学校図書館との間に十分な連携を築くためには、学校側にその受け皿となる「専門の人」の存在が不可欠です。

町田市における 2008 年度から開始された学校図書館支援貸出の実績を見てみると、約 8 割の登録校(50 校)と年間 5000 冊の貸出(「町田の図書館」2011 年度)が報告されており、これは大きな成果と言えます。しかし、サービス開始後すでに 5 年が経過したにもかかわらず、いまだに全校登録が進まず、登録及び利用校が漸増でしかないことを考えると、この制度もしくは制度の背景に大きな障壁があるのではないかと推測されます。言い方を変えれば、せっかく市立図書館がサービスをしようと努力しても、サービスを十分に活用できる・活用したいと考える立場の人が学校側にいないことが、大きな原因であると考えられます。

これは先進的な市立図書館と学校図書館との連携・協働、支援貸出の多大な実績を実現している市川市の状況を見れば、一目瞭然です。学校司書がいて、あらゆる教科での資料提供をしようとすれば、市立図書館の支援貸出を利用しないなどということは考えられません。

2. この学校司書は、図書館の専門家であること。

現況では公的な「学校司書」の資格はありませんが、基本的には図書館学を修めていること、また常に学校図書館の課題に積極的に関わり、学校図書館の立場から職員とも十分な意思疎通が図れること、学校図書館の蔵

町田市市長 石阪 丈一様
町田市教育委員会委員長 佐藤 昇様
町田市教育委員会教育長 渋谷 友克様

第14期町田市図書館協議会
委員長 松尾 昇治

緊急提言 学校図書館に学校司書配置を

町田市においては、2001 年3月に「町田市立学校図書館充実検討委員会報告書」が町田市立学校図書館充実検討委員会より出されました。また、2003 年7月には「子どもたちに豊かな読書環境を一町田市における読書環境の向上を目指して―」が第9期町田市立図書館協議会より提言がされました。

さらに、2011 年 12 月市議会において“すべての町田市立小中学校図書館に「専任・専門の学校司書」の配置を求める請願”が採択されています。

これらを踏まえて現在の町田市小中学校図書館のあり方をみた時、1999 年より始まった図書指導員(有償ボランティア)制度では、子どもたちの学ぶ力・想像する力を伸ばすには不十分と言わざるを得ません。

学校図書館にも専門の教育を受けた学校司書がいて、司書教諭と連携し、図書館実務を行っていくことが本来のあるべき姿です。図書館とは、本と利用者をつなぐ人がいてこそ図書館であります。学校図書館法上の規定がなくても、厳しい財政状況の中、学校図書館担当職員(学校司書)を配置している学校は平成 24 年度においては、全国では小学校 47.8%、中学校 48.2%に達していて、その必要性が強く認識されています。

平成 24 年度よりの政府予算は、「学校図書館整備5ヵ年計画」の継続に加え、「学校図書館への新聞配備」と「学校司書配置」の予算が地方交付税交付金の形で財政措置が講じられています。町田市においてもこの措置を歓迎し、予算化及び人的措置を行うことが、未来を生きる子どもたちのために現在の行政に求められることです。

国会においては、学校図書館活性化協議会が設立(2011年6月)され、学校司書設置の法制化が検討されています。

人を育てるには 100 年先を見るということ为先人は申していますが、町田で育つ子どもたちが他地域より劣った教育環境で育つということは看過できないことです。学び舎の中で知的好奇心を満たしていける環境に近づけることは、教育に携わる人の責務ではないでしょうか。

町田市は、英断を持って学校司書の配置を国の法制化より前に実施されることを切に願います。

なお、毎年出されています「町田の教育」に学校図書館への記述がないのは遺憾です。教育委員会組織において、学校図書館を総括する主幹を明確にされ、是非各学校図書館についてもその状況を報告していただきたいものです。

書構築と資料提供に意欲と責任を持ってあたれること、またなにより大切なのは児童・生徒に対して教員とは別の視点から対応できること、さらに学校図書館という独自の立場でありつつも同時に図書館員としての目線を持っていること、などが挙げられます。これらの資格・資質を十分に満たすことのできる人を、積極的に採用することが必要です。現状のような、PTA や保護者から募る、校長の裁量に任せるといった方法は、他市ではほとんど採用されていない事実を考慮すべきです。

さらに現在の学校図書館は、新学習指導要領などから「読書センター」と同時に「学習・情報センター」として機

能することが求められています。この要求はかなり高度なものと言え、単に読書の場でない、明確に授業に活用できる図書館を目指すならば、それに十分応えられる専門性が必要とされます。言うまでもありませんが、学校図書館法においては、「学校図書館とは…中略…学校の教育課程の展開に寄与する」ことが明確に規定されています。

3. この学校司書は1校専任であること

現在の図書指導員制度では、半数以上の学校で、やむなく複数の人が登録し交代で図書館の運営にあたって資料

1. 学校図書館法

2. 文部科学省平成24年度学校図書館の現状に関する調査結果

3. 学校図書館図書標準

4. 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次) 主にp13、24

5. これからの学校図書館の活用の在り方等について(報告) 主にp18、別紙2

6. 学校司書配置のための地方交付税措置(平成24年度より)

7. 学校図書館活性化協議会の設置と活動計画(平成23年6月1日)

8. 学校図書館法の一部を改正する法律案(仮称)骨子案

9. 2011年12月議会採択の“すべての町田市立小中学校図書館に「専任・専門の学校司書」の配置を求める請願”

います。これは本来けっして望ましい形ではありません。一校に一人の学校司書がいて児童・生徒・職員と常に接し、信頼関係を築くことが非常に大切です。ころころと人が変わる、昨日伝えたことがきちんと伝わっていないなどは信頼を損ねるもどです。また授業の活用を積極的に押し進めるためには、その打合せや資料準備などを同一の人が行うのが必然です。当然市立図書館との対応についても、同じことが言えます。以上

第14期町田市立図書館協議会委員

委員長 松尾昇治

副委員長 市川美奈

委員 ・富田直人 ・石井清文
・水越規容子・久保礼子
・山口洋 ・竹内美季
・沢里冬子 ・玉目哲廉

図書館見学記 Part 1

「甘草屋敷子ども図書館」&「山梨県立図書館」



甘草屋敷子ども図書館

去る7月3日(水)、今年度の会活動計画の一つである「図書館見学」を実施した。第1回目は田井郁久雄さんよりの「塩山駅のすぐ傍に“甘草屋敷子ども図書館”という文化財の建物を独立したユニークな図書館がありますよ」、の情報を得て実現したものである。そこでは、毎月第1・第2水曜日の10:30から「絵本クラブちびっこおはなし会」が開かれて、一般参加も自由ということなので、それならと午前「甘草屋敷・・・」、午後少し足を延ばして甲州駅傍の山梨県立図書館を見学しようということになった。参加者は9名(伊藤・日下部・久保・多田・玉目・手嶋・野沢・丸岡・増山)。その方たちに会報に感想を寄せて下さるようお願いしたところ、5000字余におよぶ原稿が寄せられた。説明箇所等重複しているところは頁数の関係でまとめて記載、個々の感想を主に紹介する。(増山)

甘草屋敷子ども図書館

想像していたよりずっとこじんまりとしていて郷愁を誘う佇まいは、そこだけまるでタイムスリップして時が止まってしまったような錯覚をおぼえる。入口で靴を脱ぎ畳敷きの部屋に入ると、まず子どもが絵本を手に取りやすいように作られた低い棚が目に入ってきて「これは！」と思わせる。受付け貸出しカウンターは小さい木製。10畳程の和室2部屋を襖抜きした広さ(縁側付き)に、よく手入れされた木のぬくもりと周りの清々しい緑がマッチして、それだけで気持ちを和ませてくれる。

この日通算264回目となるおはなし会は、さわやかな風が通り抜ける部屋で約30分、わらべうたやブックトークをおりませで楽しく行われた。参加者



は、1歳前後の赤ちゃんとお母さんの10組ほど。

私はおはなし会の4人程

の読み手の方たちはベテランの図書館員だとばかり思っていた。「えっ！ ボランティアさんだったの？」と正直驚いてしまった。内容は分からなくてもその場の楽しい雰囲気は赤ちゃんにも伝わってくるのだろう、泣き出す赤ちゃんもなく、しばし私まで幸せな気持ちに浸ることが出来た。(多田)



甘草屋敷子ども図書館開架フロア

歴史公園の一角にある、小さな子ども図書館は、普段、公園の里山環境を利用して“子どもと本と自然”を結びたいと活動をしている野津田・雑木林の会にとって、とても興味深いもの。その図書館は、お屋敷のすぐ裏手、井戸や庭木を残し、きれいに草刈を

甲州市立塩山図書館分館

「甘草屋敷子ども図書館」

国の重要文化財旧高野家住宅(通称甘草屋敷築 200 年程)内にある文庫蔵を改造した日本でも珍しい畳敷きの2階建て純和風図書館。蔵書はロングセラーの絵本を中心に約 4000 冊。2階には、郷土資料も多く、ギャラリーとして様々な企画展を展示。

休館日: 火曜日、年末年始

(但し、月・祝日は非貸出)

貸出冊数は甲州市内4館(勝沼中央館と3分館合わせて)1人20冊迄・8日間。

* 甲州市(人口約 34,000 人)

した気持ちのいい緑のなかにある木造の2階家でした。縁側の戸はすべて戸袋に入って、書架と絵本が家に溶け込んで柔らかな雰囲気が緑と調和して…、まず、その空間が魅力的でした。

小さな土間で靴をぬいで入館すると、目の

——と、いま、野津田公園の基本計画について、有識者、市民委員をまじえた懇談会で話し合いが行われています。そのなかで、関係業者から「バスで公園内を周遊」とか、「飲食店の導入」など大型レジャーランド風の発案がなされています。そんなものより——一、こんな、子どもを育てる拠点ができたらいいなあど夢がふくらんだこの日です。(久保)

庭に向けた広い畳の2間続きの部屋には縁側があり、ここに腰掛けて足をぶらぶらさせながら本に読みふけている子どもの姿をつい想像してしまいました。ぎしぎしと重々しく鳴る厚みのある板の間や、急な階段は昔の子どもたちが裸足でぺたぺたと歩き廻ったであろう。そんな古い文庫蔵の中で、現代の本が子ども達の心を物語の世界へと誘うように並べられているのに感激。200何年も前の建物の中で、子どもたちと若いお母さんたちは目をきらきらさせて本の世界を楽しんでいました。(伊藤)

おはなし会を目当てに来た私たちは親子さんたちとともに手遊びや読み聞かせを楽しみました。30分という短いといえないおはなし会はベテランのボランティアさんの巧みなリードのせいも、また参加された親子さんともども聞き上手なのか、おちびさんたちが聞き入っているのが凄いなと感じました。(丸岡)

町田の中央図書館には、畳敷きコーナーがあり、それは全国でも珍しくはないが、開架室が畳敷きでそこに書架があるというのは他の例を聞かない。畳に座って赤ちゃん向けのおはなし会を見学する機会を得た。アットホームな雰囲気が何ともいえない、素敵なおはなし会だった。(手嶋)

前に、これまた小さな受付カウンター。ちいささが、何ともホッコラ、優しい感じ、いいのです。

それにお話会に参加させていただくのも楽しみでした。赤ちゃんを抱いたお母さんで座布団の指定席は満員御礼。開放した部屋の縁側からは、とても心地風が入ってきます。赤ちゃんも、お母さんも、くつろいで笑顔がいっぱい。「くまさんのがたごとバスに乗って、出発！」と、素敵な演出で始まったお話会は、絵本の読み聞かせ、ブックトーク、わらべ歌あそび、季節の本の紹介などなどをテンポよく織り込み、素晴らしいものでした。最後に「ご本をいっぱい借りて帰りましょう」と声掛けをして、おしまい。

聞くところによると、こんな充実したお話会がボランティアさんによって企画・運営されているとか。

地域の文化と地域の子どもの大切にしたいと思う市民の心意気が、深く伝わってきたことでした。

町田市で最も広い野津田公園を、今後どのように

山梨県立図書館

パソコン利用には個人でタッチパネルにて予約できるようになっており空き状況、利用時間の確認ができるようになっている(この作業に多くの神経と時間を費やしている者にとって、これは非常に羨ましい)。

児童書コーナーには照明等いくつかの問題点があるように思われた。読み聞かせのコーナーの仕切りが薄いカーテンだったり(活動時は不明だが)、大型絵本が数多く並べられた書架の周りには、その本を開くスペースもない。また、棚上に、絵本を乗せた小型観覧車が回っていたり、派手さが目に付き、機能性が感じられない。

2階ではボランティアの腕章をつけた人が、ブックラックではなくミニカートでのんびりと配架作業をしていたが、どのようなシステムで動いているのかがとても気になった。

全体的にみると多くの自習席があり学生に特化しているように見られた。自動予約受取りコーナーでも学生が利用しているのを見かけたし、公共図書館によく見られる多くの年配男性の姿はほとんど見かけなかった。この件の良し悪しは別として、本来の県立図書館としての役割はどうなっているのかは見学からだけではわからなかった。

日頃お世話になっているK県立図書館の努力と後方支援、予算削減を考えつい重ねて見てしまったが、外見と一部外部委託されていることなどを考え合わせると図書館というよりもメディアセンターとして見える山梨県立図書館であった。(多田)

外観も中の様子もびかびかのキラキラで、何かで見た未来都市はこんな風なのかしら？ 広々として、清潔感、透明感は感じられ本もきれいな書架に沢山並べられているのだけれど、高齢者の身には何となく着かず隅この椅子を探してしまう。でも、今を生きる人達にはぴったりなのでしょう。学校帰りの高校生の姿が多く、明るい喫茶コーナーで談笑したり、パソコンコーナーで調べものをしたり、新しい図書館を有効利用している様子が伺えました。

旧きものを大切に、新しいものに臆せず挑戦する甲州地のふとこの広さ？を感じました。(伊藤)

見るからに涼やかなガラス面の多い外観でした。入口を示す矢印が大きくて目立つので、最近とみに視力の衰えたわたしは強く好印象をうけました。ところが中に入っていくとつぎつぎに気持ちが萎えて「これ、図書館なの？」と思わせられる事の続出でした。個人の好みかもしれませんが、外から見て涼やかだったガラス壁面はなかからみると、確かに外光を取り入れてはいるものの落ち着いた無機質な感じが強く本にいざなうやわらかさに欠けるのです。パソコンはあちこちに場所をとり、本はなんだか片隅にある感じ。注目を浴びるようにとライトを当てられている本は、後方から照らしているため、肝心の本の題名さえ手暗がりて読めない有り様。

しかし、新聞がそのままの大きさで保管されている点やお弁当を食べるスペースが確保されている点はいいなと思いました。我が町の図書館にくらべると、来館者は中高生、大学生が多く、年配者が少ないように感じました。(丸岡)

甘草屋敷子ども図書館とは、あらゆる意味で対照的な新しい図書館である。

県立図書館であるからには、さぞかし多くの書籍が開架にあると想像していたが、さにあらず。書庫にたくさんの資料が入っているのかもしれないが、開架を見る限りでは新しい書籍が大半で、しかも、全集やシリーズものが目立っていた。要するに蔵書構成に深みを感じられないのである。

平日の昼間ということもあったかもしれないが、学校帰りの高校生ばかりが目立った。図書館の資料を使って何かをするというより、閲覧席を利用して宿題や受験勉強をしたり、パソコンを利用したりすることが多いのではと想像される。閲覧席等の利用はもちろ



山梨県立図書館

【フロアーは…】

メインエントランスを入ると、円形の総合案内が目立つ。すぐ右手には、ガラス張りの広いイベントスペース、左手は飲食物が自由に持ち込めるカフェスペース。

「知とのであい、人とのであい」を謳っているだけあって机、座席数がとても多く目につく。川の形でエリアが並んでいる。

1F: 広い通路を挟んで左側には交流エリア(ガラス張りの部屋が3室)、右側は交流ルーム1部屋を囲むように、**閲覧エリア**(AV・サービス・自動予約受取り・新聞雑誌とパソコン利用、等のカウンターとそれぞれの書架コーナー。一番奥に児童資料コーナーと専用カウンター)があり、閲覧エリアの壁に沿って**事務エリア**となっている。

2F: 一般資料コーナー、山梨関係資料コーナー、多目的ホール、調査・研究・読書用のサイレントルーム4室(1室は3階)

【外部委託部門】…利用料金徴収総合案内(含カフェコーナー)・イベントスペース・多目的ホール・交流ルーム

【開館時間】

閲覧エリア: 平日午前9時～午後8時
土・日・祝 //～午後7時
交流エリア: 午前9時～午後9時

【休館日】

閲覧エリア: 月曜日(祝日の場合翌日)
両エリアとも: 年末年始等

ん無料であるが、交流ルームが有料であるということに関しても図書館法の趣旨から疑問を持たざるを得ない。

利用料を払って楽しそうにしゃべっている学生の姿がガラス越しに見えた。

県立図書館は、新しい施設であり、サインが大きくて分かりやすいという長所も見られたが、利用者・住民が図書館でどのような活動をして、地域社会に何をもたらすかという点にまで配慮が行き届いている施設にはなっていないように感じた。(手嶋)

～町田市民文学館から～

「作家と一緒に読書会 河合二湖さんと読む『深海魚チルドレン』」 開催

町田市民文学館 嘱託 高橋 峰子

個人的な行為に思える読書、なのに、知らない人とその感想を語り合うなんて…いささか面映ゆい。でも、時々、「こんな読み方もあるんだ」と気づかされることもある——。しかも、そこに書いた本人、作家がいたら、どんな感じ…？

7月27日(土)午後、新進作家の河合二湖さんを迎え、『深海魚チルドレン』(以下『深海魚～』と略)をテキストに、自由に感想を述べあい、また作家から直接作品ができるまでの道のりをうかがう、という読書会を開催しました。

『深海魚～』は、中学に入ってからすぐ、授業中の尿意と戦わなければならなくなった少女真帆の物語です。友だちや家族との関係がしっくりいかない中で、真帆はまるで深海に沈むような、心落ち着く「場所」を見つけ、そこで新しい家族と出会います。その出会いを通じて、今は暗いところにいっても遠くに輝く光を「綺麗」と思うことはできる、かすかではあるけれど、確実な光を感じることができるといふ物語です。思春期のだれもが経験した、言いようのない不安定さが丁寧に書きこまれています。

参加者は中学生9人、大学生2人、教員2人、図書館員1人の14人。

好きな作家などもあげてもらって自己紹介し、ぎこちないながらも、おだやかに始まりました。

第1部(13:00～14:00)の「感想を述べ合う」では「こういうことで悩んでいる人もいるんだなあと思った。人をやさしく見る目を持ちたいと思った」「思春期には心の闇に行く時がなければならず、そこから出るのには長い時間がかかることもある、そのことがよく描かれている」などそれぞれの年齢、立場からのさまざまな感想が出ました。始めは参加者を中高生に限っていましたが、いろいろな年齢の方がいることで、互いに新鮮な感想に出会うことができましたと思います。

第2部(15:00～16:00)では、映像を使いながら、河合さんが作品を書き上げるまでの経過、またイメージづくりに参考にした店や場所などを紹介してくださいました。本のうしろに広がる世界を感じる、楽しい時間でした。

最初は言葉少なだった中学生も、大学生(芸術学

部文芸学科)のリードやティータイムなどで、次第に打ち解け、10分間のティータイムのあとはそのまま**第3部の質問タイム**に。

「毎日書いていて手がつきませんか」「この作品を書くのに難しかったのは

どこですか」「タイトルはどうやって決めるのですか」などの率直な質問をしてくれるようになりました。

河合さんが周到に準備してくださったおかげで、参加した方たちに満足していただける会になりました。また、講談社の担当編集者の方も参加くださって、編集サイドからの作品づくりなどうかがうことができました。

今回の読書会には、本来の目的のほかに、担当がひそかに考えていた「若いときに本物に出会い、話を聞く」という目的がありました。河合二湖さんはもちろんのこと、編集者、文芸を専攻する大学生と、本が好きな中学生にとって、将来を描く実在のモデルと接する機会にもなったのではないかと思います。今は分からなくても、何年か経って、この日のこと、出会いを思い出してもらえたらと思います。

半年がかりで市内の中学、高校に呼びかけましたが、直前まで反応は薄く、企画に対する自信を失いかけていましたが、文芸部の生徒を引き連れて参加して下さった顧問の先生、朝礼で呼びかけてくださった司書教諭の先生、参加して下さった大学生、大人の方々に助けをいただき、なんとか第1回を終わらせることができました。また、企画に先立ち、相談に乗ってくださった方、生徒さんに声かけをしてくださった方、いろいろな方に支えていただきました。「すすめる会」のMLにのせていただいたことで、図書館員さんの参加を得ることもできました。みなさまにお礼申し上げます。眠れない夜もありましたが、喉元過ぎればなんとやら、またなんか考えちゃおうかなあ…の担当です。これからもよろしくお願ひいたします。(会員)





ひろば

【例会報告】 18:00-20:30 中集会室
 ・6/19(水) 会報 176 号印刷
 ・7/17(水) 会報・休刊

出席者 6月 ・石井・伊藤・久保・清水
 ・多田・玉目・手嶋・増山
 ・丸岡・三谷・目黒
 // 7月 ・石井・伊藤・清水・多田
 ・玉目・手嶋・増山・丸岡
 ・三谷・目黒・桃沢
 ・守谷・山口・渡辺(彰)

2013年度 第6回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

9月19日(木) 10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算76回)

*町田ゆかりの作家紹介 渡辺有一 太田晶子
 *三つののぞみ(スウェーデンの昔話) 森まり子
 *腰折れすずめ(日本の昔話) 菊池とも子
 *リス女房(フィリップ・ピアス作) 増田佳恵
 直接会場へどうぞ! 無料 保育有
 (町田市民文学館 ☎042-739-3420)

6月定例会

・「まちだ図書館子どもまつり」に、参加するため、すすめる会も団体登録をすることに。実行委員を玉目さんをお願いする。/7/16(火)第1回打合せ会出席。
 ・かえで文庫に三基商事から10万円相当の本のプレゼントがあった。町田の久美堂で購入/成瀬センターにおかれる文庫の一面に自動貸出機を設置させてほしいと、図書館から話があった。
 ・本日、町田市雑学大学で大下元市長の講演「1期、2期で何を目標として市長を務めたか」を聞いた。レジュメを見ることもなく2時間立ってのお話。
 今したいことは何かの質問に、「基本的人権の尊重」と答えられたことが印象的だった。

7月定例会

● 図書館見学に行ってきました。(報告はp4~)
 ● 図書館協議会報告 (p2~)
 ・学校司書配置の法制化が間近なので先んじて採用をすすめるべきであるとして、「緊急提言 学校図書館に学校司書配置を」を提出。
 ・図書館五か年計画が動き出しているが市民の意見はあまり反映させていない。
 ・第14期が終わり、委員10名の内7名が入れ替わった。新期協議会委員の5名は当会会員。
 ● 「としょかん子どもまつり」(2014年3月27日~30日)について...すすめる会として3月恒例の広瀬さん講演会を持つていく。
 ・第2回打ち合わせ会が8/20(火)に行われ、実行委員会がスタート。今年度は、町田市立図書館全8館(含文学館)児童担当と12の市民団体で構成。
 ● 富山の舟橋村立図書館+小矢部市民図書館「おとぎの館図書室」見学は10月8、9日を予定。
 ● かえで文庫...金森図書館の係長が成瀬センターについて説明に来てくれた。4000冊の資料と自動貸出機、アルバイトを一人常駐させるとのこと。

会報を読んで/読者よりの便り

町田の図書館活動をすすめる会様
 まだまだ猛暑が毎日、いつも知恵の樹をお届けくださり、うれしくありがたく拝読しております。
 戦後67年、幾度か憲法改悪の危機を乗り越えてきましたが、今回は年齢の精にはしたくないのですが、落ち込んでおりました。
 しかし「知恵の樹」No.176号の本間美智子さまの「すいとんのひ」を読み、このような方々のお蔭で戦後民主主義は確実に積み上げ広げられていることに気がつき、うれしくなりました。
 公共図書館の発展こそが、平和な社会・世界へつながっていくということを実感させていただきました。ありがとうございました。
 皆さま、お元気でこの夏をのりきり、シコシコと運動を続けていきましょう。(住田啓子)
 *会費と沢山の切手が同封されていました。

貴会報巻頭言。本間美智子さんの「家族新聞」に関するレポートに感動しました。
 私と同年代、そして同じ病に侵されて...。それでも平和のための活動を続けておられる生き方をされている。その実践に裏付けられた生き方が、感動を与えるのだらうと思います。
 限られた紙面。書かなくても伝わるものがあることを知らされました。(山本宜親)

イベント情報

◇町田市民文学館より...児童文学連続講座「幸福な冒険小説 アーサー・ランサム「つばめ号とアマゾン号」シリーズの魅力」講師:神宮輝夫氏/10/2・16・30/11/13・20、全水曜日 13:30~15:30/申込:往復はがきで9/11(水)迄に文学館へ。(定員50名 申し込み多数の場合は抽選)1歳以上未就学児の保育つき(6名)。

◇まちだ語り手の会・夏のおはなし会「姉妹・兄弟のむかし話」8/30(土)14:00~16:00 市民フォーラム3F 活動室/500円 直接会場へどうぞ!

あとがき 連日30度を超える暑い夏。熱中症、水不足、爆発、行方不明、殺人...、暗いニュースが飛び交っている夏。浮かれている人間と沈んでゆく人間の乖離がまた広がる。日本人は、本を読んでもっと心に栄養をつけなければ、どんどん無知な人が多くなるようで怖い。(M*)